

編集後記

■あつという間に夏が過ぎ、お忙しくなさっておられることかと存じます。大会間際になりましたが、20巻2号をお届けいたします。久しぶりの九州での学術大会、楽しみです。

■今号は、総説は辻村誠一先生に、メラノプシン細胞に関する最新の知見をまとめていただきました。多岐にわたる内容を素晴らしくまとめてくださっていて、とても参考になるのではないかと思います。辻村先生、どうもありがとうございました。

■そのいっぽうで、大変残念なことに哀しいお知らせが今回は相次いでしまいました。詳細な神経生物学的探究からSCNが時計中枢であるという知見を確立した川村浩先生、臨床医学における時間生物学的知見の研究・普及に貢献し、当学会の前身である「生物リズム研究会」の設立にご尽力いただいた川崎晃一先生、そして時間生物学研究及び生物発光研究の泰斗であり、時間生物学における様々なメカニズム（特に温度補償性）や生物発光リズム計測のアイデアを提案されたJ. Woodland Hastings先生…。偉大な先生方の業績や人となりを振り返り、感謝の念を新たにしたいと思います。心よりお悔やみ申し上げます。

■今号の表紙は、その名も“Time-poiesis”。二次元上の生物たちの動き（時間軸）をZ軸に変換することで、新たな三次元の造形を三次元プリンターを用いて出力するというプロジェクトです。タイムラプス映像からは直感的に想起できないような、意外な三次元の映像が立ち現れるものですね。表紙の造形をみて、それぞれどんな生き物の動きか想像できますか？ 考えてみると、私たちが普段解析している振動現象を二次元上にプロットするのも、時間軸をX軸上に変換することでグラフ化しているものですが、「どうやって生き生きとした動きや時間をとらえるのか」、いまなお私たちにとって大きな課題ですね。

時間生物学 Vol. 20, No. 2 (2014)

平成26年10月31日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院 生命農学研究科
応用分子生命科学専攻 海老原史樹文研究室内
Tel : 052-789-4066

(編集局) 〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2
早稲田大学先端生命医科学研究センター
(TWIns) 1F 岩崎秀雄研究室内

Tel : 03-5369-7317 Email : hideo-iwasaki@waseda.jp

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部